



熊本県立宇土高等学校 科学部地学班

熊本県宇土市古城町63

幻の不知火現象の研究

～研究から見えた様々な環境変化を多くの人に伝えたい～



Action

私たちは幻の不知火（しらぬい）現象を見たいと思い研究を始めました。不知火は、1年の中で八朔（旧暦の八月一日）の晩に不知火海でしか見ることができないとされている怪火で、蜃気楼の一種です。昔は不知火を見に多くの人が集まり、研究も盛んに行われていたそうです。

4年間観測を行いましたが、残念ながら昔見られたような明瞭な不知火を見ることはできませんでした。その代わりに、様々な環境変化が起こっていて、それらが不知火を見られにくくなっている原因となっていることが分かりました。そこで、不知火の観測状況や不知火海沿岸の環境変化の現状を、多くの人に伝えたいと思い、研究内容を部活動の発表会だけでなく、文化祭や学会など校内外の活動に参加し、積極的に発信することにしました。不知火が見られる自然環境を未来へと繋いでいきたいという私たちの思いは、SDGsの理念と合致する部分が多く、私たちの研究が人々を環境保全について考え行動する機会となれば嬉しいです。